環境かわら歌 in 曽根干潟 作品百撰 かわら版

主催／一般社団法人 北九州青年会議所
後援／北九州市環境局
協賛／北九州活性化協議会　もったいない総研
事業名／もったいないスクール 2013

【最優秀賞】

「曽根干潟と経済との関わり部門」短歌の部

遠浅の 空の客へも 潮まねき
曽根干潟から みなおもてなし
（掘州）

【優秀賞】

「曽根干潟と自然部門」俳句の部

あさりがい にっこりわらい しおをふく
（行村 真）

野鳥たち 外国からの お客さん
（橋本 明侑）

「曽根干潟と自然部門」短歌の部

干潟まで 命を運ぶ 竹馬川
歩いて行こう くじら島まで
（悠羅江門）

「曽根干潟と経済との関わり部門」俳句の部

工場群 蜃気楼めき 大干潟
（大庭 隆子）

「曽根干潟と経済との関わり部門」川柳の部

曽根の幸 カキカニアオギス カブトガニ
（岩田 健治）

「曽根干潟と人のくらし部門」俳句の部

ゴミ拾い 子らが守る 曽根干潟
（矢野 武志）

海を見て 思いにふける 曽根干潟
（越智 芳浩）

「曽根干潟と人のくらし部門」短歌の部

故郷を 遠く離れし 子や孫の
話は尽きぬ 曽根の干潟よ
（佐藤 重光）

曽根干潟と自然部門

「俳句の部」

汐噴くも つぶやく穴も 曽根干潟　大庭 隆子
波のごと 寄せては返す 浜千鳥　上月 宏之
悠久に 恵み豊かな 曽根干潟　柏田 知甫
初鴨の 足裏に馴染む 曽根干潟　耕ちゃんママ
曽根干潟 生きてる図鑑 次世代に　小川 明義
八つの蟹 飽いたか白鷺 午睡（ひるね）どき　ばるちゃん
カブトガニ いきてるあかし まもるため　さかき あいり
そねひがた まんげつの夜 海になる　山田 もか
曽根ひがた ゴミをすてずに 拾おうよ　行村 優沙
ゴミ拾ろい ぼくらでまもる カブトガニ　岡本 こうた
冬と夏 ズグロカモメの 色かわる　竹野 花香
スナメリは ま島のおくに いるんだよ　八ひろ ゆう
潮干狩り 泥にまみれて 大笑い　荒木 穂志
秋の末 干潟に集う カモメたち　藤 さくら
越冬地 干潟で穏す 渡り鳥　ゆーた
遠浅の 水面に映りし 渡り鳥　中村 芳伸
幾千の いのちを抱く 泥の海　清水
引潮の 砂紋に現る 憩いの場　古賀
曽根干潟 海の恵みの おもてなし　カブトムシ1号
千年の 潮の満干や 曽根干潟　加藤 誠二
月光や 島浜の浮く 周防灘　加藤 誠二
羽休め 鳥のオアシス 曽根干潟　ぼちぼち
曽根干潟 朝日が明かる さざ波に　ぼちぼち
カブトガニ いなくなるな おねがいです　富山 大利

曽根干潟と人の暮らし部門

「俳句の部」

曽根干潟 小さい頃に 潮干狩り　佐藤 良
ゴミひろい 生きものたちは いい気持ち　さかい しゅんや
そねひがた わたしがまもる クリーンさくせん　こいずみ 夏よ
そねひがた なぞがたくさん すごいのね　江口 みちる
そねすがた ぼくらの町の たから物　太田 凌介
そねひがた しぜんがじまん たからもの　小南 かりん
そねすがた ゆたかなくらし カブトガニ　ふく田 らな
そうじして 干潟の生き物 助けよう　鶴田 陽平
守ろうよ 豊かな自然 クリーン作戦　根本 鈴菜
町の人 みんな大好き 曽根干潟　香取 すず
人々の 暮らしできっと 美しく　奥須賀 蒼
この干潟 地域みんなの 宝物　中野 洋輔
我ふるさと 億年をこえて 曽根干潟　竹下 美智子
潮干狩り 聞くたび想う 淡い恋　カブトムシ2号
えどじだい ましまのいしで こくらじょう　行村 真
カブトガニ しゅっさん手伝い ゴミひろ　中川 海と

「短歌の部」

後来も 子どもの声が こだまする
街も干潟も 明るくそめて　谷口 泰正
左手に 海の見ゆる 一本道
胸に刻む ふるさとのにほひ　あおのさと
昇る陽に 真っ赤に染まる 曽根の海
今日も朝から 三文の得　だぱん。

「川柳の部」

清風が 干潟のいのち ふくらます　古谷 清
干潟満ち 海鳥帰けば 僕笑う　悦郎
曽根干潟 別れる頃は 日焼け顔　悦郎
我が曽根の 観光大使 「カブトガニ」　矢野 武志
曽根干潟 十年後には 夢の郷　山田 徳子

「短歌の部」

冬を越す 干潟の突堤 歩きゆく
ズグロカモメの 足環がひかる　田 ヒテ子
幾年の 星を見たか 曽根干潟
変わらぬ姿 永久に続け　松浦 晃子
亥ざいかん 足立の古き けもの道
かえり見ませば 曽根路に春　上田 喜代子
渡り鳥 干潟におりて 餌さがす
やさしき海と 人の温もり　秋吉 澤子
はろばろと 時のさゞ波 寄する潟
命繋て 兜蟹超し　谷口 啓子
夕映えは 干潟のくまぐま 染めあげて
茜になかを 陽は沈みゆく　佐々木 功
干潟には じっと潮待つ 青鷺が
今日の命を 継がんが為に　阿部 洋六
幼き日 友と遊んだ 曽根干潟
話す自分は 孫の顔　岡 勝一

かぶとがに 捕り手遊んだ 夏休み
今は昔の 思い出となり　秋吉 澤子
空の青 今に残せし 曽根干潟
未来につなぐ 宝の海よ　秋吉 澤子
カブトガニ いずれの軒にも 下りおり
はちがめの巣子 今や懐し　松本 恵美子
日さぎの 足跡たどり ぬかるみの
自然とたわむれる 幼な子の如　松本 恵美子
曽根干潟 はしゃぎとび沙魚 追いし日の
潮の匂いに 夫の偲ぶ今　波多野 良子
真島見ゆ 曽根の干潟に 佇めば
カブトガニ追いし 父の背愛し　土橋 寿威子
嬉しき時 悲しき時時も 佇めば
心の広ごる 曽根の干潟よ　土橋 寿威子
豊穣の 曽根の干潟 限りなく
幾代の育み 百万招く　吉崎 順子
潮引きて 子どもの手を引き 砂を踏む
今も昔も 曽根の干潟に　こんもり
そねひがた あぁそねひがた そねひがた
まだいきてくれ このよのために　岩崎 大輝
せいそうで みんなで守る 曽根干潟
クリーン作戦 エイエイオー　那須 裕
いつまでも きれいな干潟 守るため
ソネットパワーで クリーン作戦　内田 昂希
曽根干潟 ゴミをすてたら 生き物が
いなくなるから やめようよ　中川 穂香
いつまでも クリーン作戦 続けよう
町のみんなが いきものがかり　坂根 陽子

うけ継いで 未来に贈る 貴蟹
曽根の干潟に 水鳥の声　有働 道高
間島かこみ 広がるはても 曽根干潟
竹馬や貴の 流れに生きて　有働 道高
遠き日に 曽根の干潟を そめしとふ
シチメン草の くれなゐを恋ふ　亀山久美子
人と人 海山川を 織り交ぜて
時にたゆたう 曽根の淡海　曽根の侘助
朽網（くさみ）曽根 貫は山蜘蛛伝説の
沖から眺む 古（いにしえ）の里　ばるちゃん
曽根干潟 絶滅危惧種 あつまるよ
ダイシャクシギに ズグロカモメも　柴田 理紗子
沢蟹の 啄ばむ小鳥 凛として　あああああ
反に誘われ いざはばたかん
古い史が 刻まれている 曽根干潟　まい
天長地久 美しい
古（いにしえ）の にぎわい香る 曽根干潟　小嶋 やすし
今も変わらず 楽しそうね
百万の 人材活きる わが街と　田中 浩二
ともに歩みし 曽根の宝海
いくせんの 時をかなでて カブトガニ　岸川
沈む夕日も 曽根干潟知る
曽根干潟 ぼくらのたから カブトガニ　岡本 航汰
生きた化石

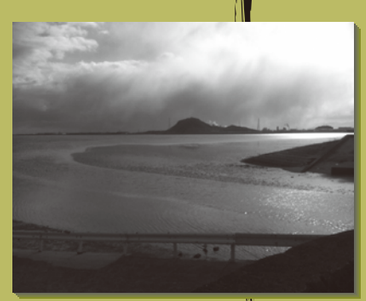
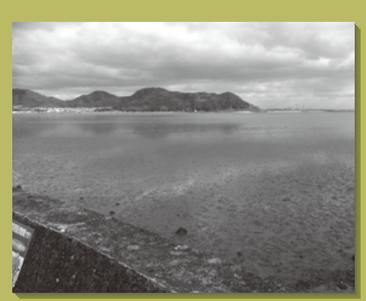
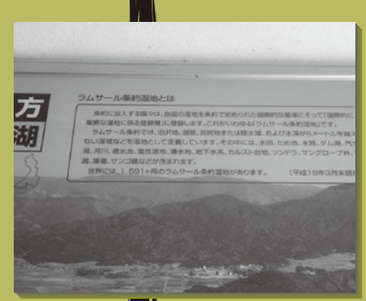
変わらぬは 想ひ出つなぐ
曽根干潟 孫にも見せたい 母の思い　ミオパン
夕焼けの 虹かがやく 曽根干潟
こころにしみる 思ひ出の地　おおつぼ
潮干狩の 袋担ぎて
バスに乗り 干潟をあとに　徳右衛門

曽根干潟と経済との関わり部門

「俳句の部」

鯊を釣る 背中の並ぶ 千間土手　耕ちゃんママ
秋麗の 干潟を跨ぐ 釜山便　耕ちゃんママ
益東風や 大漁兆す 耕網漁　松田 健作
曽根の田を 支える水がめ 昭和池

「短歌の部」

朝に 曽根の干潟に 耕運機
牡蠣の収穫 大漁まちて　秋吉 澤子
曽根干潟 潮の恵で 力キ育て
未来に残せ 力二力キロード　小川 明義
赤い鶴 黒い翼が 人を乗せ
青い空へと 旅立つ鳥よ　小森
曽根干潟 曽根東地区の ひとびとの
漁業を支える 大事な干潟　森 唯花

平成二十五年霜月